

平成 27 年 7 月 22 日

様

志段味の自然と歴史に親しむ会

代表世話人 野田輝己

世話人 高木備太郎 櫻井隆司

玉岡悟司 犬塚康博

去る 6 月 19 日、市会の各会派に名古屋市守山区中志段味の天白・元屋敷遺跡の保護・保存の件について、資料をつけてお願いをさせていただきましたが、6 月いっぱい発掘調査が完了して現場事務所がたたまれた後の 7 月初めに、発掘調査区域にブルドーザー、パワーシャベルが入って、検出遺構をほぼ全面的に削平し破壊する工事が進められました。その結果、私たちが求めていた発掘調査区域を含む全面的な遺跡の保存は、事実上できない状況となってしまいました。私たちの力及ばざる結果ではありますが、なお天白・元屋敷遺跡には遺跡として残存する区域があり、また、先般のお願いの文書にも掲げました通り、遺跡破壊へ導き莫大な発掘調査費用がかかることになった責任の問題、調整池がかかえる問題、志段味のイメージを払拭する歴史のまちづくりの課題が、未解決のまま存在することには変わるところがありません。

今後、名古屋市としては天白・元屋敷遺跡の発掘調査の成果の証として、またこうしたケースの破壊を今後未然に防ぐうえでも、その顕彰となるものが遺跡現地に必要であるとして、引き続き遺跡の保存活用を求めていく所存であります。

当面、先にあげたような検出遺構の破壊について、名古屋市の関係部局等に抗議を行うとともに、新たに㊟として添付しましたような内容で質問書を提出いたしました。天白・元屋敷遺跡の問題はまだ終わっていない、これからも課題を解決することが必要な遺跡であると私たちは考えています。今後も、貴市会議員団のお力添えをいただけますようお願いいたします。